

1 よしのじんぐう 吉野神宮 23棟、5基 [有形文化財（建造物）]

[所在地] 吉野郡吉野町大字吉野山2番1、3221番、3240番
吉野郡吉野町大字左曾726番1

[所有者] 吉野神宮

[名称及び員数] 吉野神宮 23棟、5基

本殿、祝詞舎、楽舎、裏門及び透塀、神庫、拝殿、廻廊、内玉垣、神門、神符授与所、宿衛舎、
摂社御影神社本殿、摂社船岡神社本殿、摂社瀧櫻神社本殿、摂社拝殿、東門、外玉垣、表手水舎、
裏手水舎、修祓所、神饌所、井戸屋形、制札屋形、大鳥居、裏鳥居、参集殿

[時代] 明治、昭和

[概要]

吉野神宮は吉野町吉野山の北部に位置し、同地において吉野朝廷（南朝）を構えた後醍醐天皇を奉祀する官幣中社「吉野宮」として明治25年に創建された。その後、明治34年に官幣大社に昇格し、大正7年には神宮の号を奉称して「吉野神宮」と改称しており、社格に比して狭小となった社域を拡張するために大正12年から昭和7年にかけて再整備がなされ、このとき多数の建物が一新されて現在に至る。

当社は内務省様式の先駆的作品であり、細部装飾等に近代的造形を示すほか、廻廊に特異な平面形式を採用し、本社と摂社を十字に交差した軸線上に巧みに配置する点において独自性が認められる。こうした建築群が良好な状態を保って現存する点は貴重であるとともに、近代神社建築史上重要な役割を果たした角南隆が設計を担った最初期の作例としても高い価値を有する。

左：吉野神宮全景写真（東北より）、右：吉野神宮配置図

